

「持続可能な開発目標」に向けて手をつなぐ意義

「営業＆マーケターが欲しい！」「技術者いませんか？」「土地の所有者、連れてきました！」「3000万寄付してください！」「環境を良くしないと経済力が上がらないです！誰か力を貸してください！」…。そんな言葉が飛び交ったのは、あるゲームの体験会場です。

11月30日に行われたイベント『SDGs de (エスディジーズ) 地方創生 ゲーム体験を通して地域を考える』の会場には、中高生から各分野で活動している大人までさまざまな年齢・職業の23人が集まり、みんなで1つの地域社会を支えるゲームに挑戦しました。SDGsとは、国連サミットで



SDGs (エスディジーズ)17の目標



魅力的なプロジェクトと困難な資源確保

採択された「持続可能な開発目標」のことで、地球上の誰一人として取り残さない社会を実現するため、さまざまな分野で目標を立て世界の国づくりと人づくりをしていくというものです。カードゲームでは、その考え方を生かして地方が抱える課題や根本的な原因を体感し、具体的なアクションをおこす過程を学ぶことができます。民間企業や団体、行政機関など、8チームがそれぞれのプロジェクト目標を達成すると同時に、地域社会全体の人口や経済、暮らしなどのレベルアップを目指します。期限は12年後（ゲームでは約1時間後）になります。はじめは、自分のチームのプロジェクトとして何を競うか作戦を練ったり、周囲のチームにどんな交渉ができるのかがリサーチをしたりしました。圧倒的に足りない資金や人的資源をどう確保するのか、要領をつかむだけで時間が過ぎてしまいます。終盤になって期限が目前に迫ると、みなさんの交渉力もあがり、

問
HUBGUJO
67・9239



会場中で奔走する参加者のみなさん

「人口増」という社会全体の目標達成のために全員が奔走し、情報飛び交い、「1億出せませす！」なんて豪快な連携申し出の言葉も出ていました。ゲームの結果は、「みんな、あれだけ奔走したのに人口増の目標値には届かず」でしたが、対話や交渉などコミュニケーション、何よりも手をつなぐことが欠かせないことを体感しました。

郡上市が持続可能な町でありつづけるために、民間と行政が協働して、どんな資源を活用し、アクションをおこすべきなのか。みなさんも「自分ごと」として考えてみませんか？



目標達成のためには「対話」と「呼びかけ」が重要

～輝く未来に向かって～ 郡上未来通信

(郡上市雇用対策協議会)

◆郡上市高校企業ガイダンスを実施しました！

市雇用対策協議会では、次世代を担う高校生が地域の産業や企業について理解を深め、地元就職への意識を醸成することを目的に、郡上市高校企業ガイダンスを実施しました。また第一線で活躍している社会人から仕事や生き方に対する考え方や経験等を聴き、今後の人生の将来選択の参考としていただきました。

◆多くの企業担当者や起業家のみなさんに協力いただきました

市内高校3校の1年生285人（特別支援学校は全校生徒）が、働くこと等について話を聞きました。企業担当者、起業家のみなさん、延べ53社80人が高校生に向けて熱心にアドバイスしていました。

【9月20日】郡上特別支援学校にて



【11月13日】郡上北高等学校 白鳥ふれあい創造館にて



【11月7日】郡上高等学校 市総合スポーツセンターにて

